

目指す学校像	「夢と希望をはぐくむ楽しい向小」 ○児童の笑顔があふれる学校 ○教職員が全力で児童の力をつける学校 ○学校・保護者・地域が協働して児童に力をつける学校
重点目標	1 確かな学力の向上を目指し、分かる、できる喜びを味わえる授業 2 児童一人ひとりを大切にし、美しくきれいな安心・安全な環境における豊かな心の醸成 3 学校・家庭・地域が連携・協働したコミュニケーション力の育成 4 学び続け、指導力をつけ、子ども一人ひとりの良さを認め、プロとしての誇りをもつ教師

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○授業規律を守り、学習活動に積極的に参加する児童が多い。 ○学習状況調査では、概ね良好な結果である。 (課題) ○自ら新しい学びに挑戦し、開拓する児童が少ない。 ○国語では「知識・技能」において主語・述語、漢字、敬語の使い方、「思考・判断・表現」において話すこと・聞くことに課題がある。 ○算数では「知識・技能」において基礎的な計算の仕方、「思考・判断・表現」において目的に合った数の処理に課題がある。	・「知識・技能」「思考・判断・表現力」向上のため、授業力の高い教師集団の構築、教職員の資質上の推進 ・学ぶ楽しさを実感できる楽しい、魅力的な授業の創出	①「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の学習プロセスを明確にした指導を行う。 ②「学びの指標」等に示された授業改善の視点と方法に沿った自己評価やOJTを実施する。 ③授業を見せ合い議論する。 ④タブレット端末の効果的な活用による「学びの自律」と「個別最適な学習」そして「協働的な学習」の実現を図る。 ⑤答えが1つではない問題に取り組みせる問題解決的な学習の計画的な実施を進める。 ⑥コーチングの視点を導入した「教えない授業」の実施→「教える」から「学習者が主体的に学ぶ」授業を進める。	①人事評価を活用しOJTにより授業力向上が図れたか。 ②教職員の対話が増え資質向上につながったか。 ③業務改善が図られ時間外勤務の削減等につながったか。 ①「よい授業」アンケートの因子①因子④が市平均より高いか。 ③教員アンケートにおいて「実施することができた」の回答が8割を超えたか。 ③教員アンケートにおいて、授業の中に「主体的に学ぶ」授業が構築されたという回答が8割を超えたか。					
2	(現状) ○昨年度の学校評価で「学校で楽しく過ごしている」の質問に肯定的回答をした児童の割合は95%であった。 ○教育環境(施設・設備)の整美に努めている。 ○特別活動(児童会活動)による積極的な生徒指導を行っている。 ○教育相談アンケートによる相談しやすい環境作りを図っている。 (課題) ○校庭の遊具は雨風にさらされているため、常に点検が必要である。 ○児童自らより良い集団や学校にするという形成者としての見方・考え方に課題がある。	・安全・安心な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた教育活動の充実 ・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた行内体制の充実	①光庭(中庭)の整美を児童委員会やコミュニティ・スクールの協働活動として実施する。 ②児童会やコミュニティ・スクールによるあいさつや会釈の励行、廊下歩行キャンペーンを実施する。 ①心と生活のアンケートに加え、本校独自で作成したなかよしアンケート等実施し、必要に応じた個人面談を行い、記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②教育支援・相談に係る校内委員会でICTを活用することで、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、指導・支援を行う。	①学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答が95%以上(昨年以上)になったか。 ②学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答が93%以上(昨年以上)になったか。 ①学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答が98%以上(昨年以上)になったか。 ②児童の実態調査や検証授業の協議結果で向上している評価となったか。					
3	(現状) ○防犯ボランティア・緑化ボランティア・図書ボランティア等、自治会・育成会・PTAを中心としたスクールサポートネットワークからの支援を得ながら、地域と学校の協働活動が実施されている。 ○コミュニティ・スクールの協働活動として、あいさつ運動や中庭の整美活動を実施している。 (課題) ○組織的・継続的な連携・協働体制には至っていない。	・協働体制による児童育成の状況を地域全体で共有するための広報促進 ・支援から連携・協働体制への転換促進	①本校のホームページでコミュニティ・スクールの協働活動情報を発信する。 ②本校のホームページにおいて、学校行事等各コンテンツの内容に合わせた適宜更新を丁寧に行うことで、学校に関わる方が情報を収集しやすくする。 ①学校運営協議会において、コミュニティ・スクールとしての成果・課題・改善策を熟識し、スクールサポートネットワーク等と共有することで組織的・継続的な連携・協働体制を構築する。 ②SSNやPTAの委員会等で育てたい力や目指す児童像について共有するとともに、組織的・継続的な連携・協働体制について協議する。	①コミュニティ・スクール協働活動等の情報配信で広報を促進できたか。 ②学校だより等の配信はタイムリーに効果的に行うことができたか。 ①学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答が99%以上(昨年以上)になったか。 ②学校運営協議会やSSN、PTA委員会の中で、地域・保護者・学校それぞれの立場で学校教育目標を基盤とした協議・取組みとすることができたか。					
4	(現状) ○ICTの活用方法について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○高学年での教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができてきた。 (課題) ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られる職場環境づくりが求められる。 ○自分が担当しない教科について、教材研究をしたり、よい授業のイメージを共有したりすることが課題である。	・一人ひとりが力を発揮し、学校に集う誰もが居心地のよい(Well-Being)学校をつくる。	①年間を通して、毎月1回、ICTの活用方法について、全ての教員が学ぶ「One-team研修(仮称)」を実施する。 ②学年会や学校課題研究の時間確保や内容の充実を図り、授業力や指導力の伸長を組織的に協力して行えるようにする。	①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②「研修プラットフォーム」をもとにした資料を、教職員の主体的な活用や、管理職による奨励の促進に運用できたか。 ③学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答が95%以上(昨年以上)になったか。					